

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20224014	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	ジェット識別測定によるクォーク・グルオンプラズマ物性の研究	研究代表者 (所属・職)	三明 康郎（筑波大学・大学院数理物質科学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は遅れている。測定器のデザインは計画通り行えたが、部品調達が1年近く遅れた。その後測定器の建設は順調に進んでいるが、完成しても2013年のLHCの運転計画変更によってシャットダウンが一年延期されたことにより、成果を出せるタイミングでALICEに測定器を組み込むことは不可能である。</p> <p>期待された成果を出しつつあるが、本研究の成果を研究期間中に挙げる可能性は少ないであろう。</p> <p>大きな計画は遅れることがしばしばあり、LHCも遅れている。本研究が遅れているのは部品を発注した業者の選び方に大きな原因があると考えられるが、地震災害の影響もあるので、今後の研究の進展に期待する。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	ジェットの高精度測定のためのDijet Calorimeterは、震災等の影響により遅れてはいたが、建設は本研究期間内に完了した。しかしながら、本格的運用には至っておらず、本研究として当初目標とした成果は出ていない。本研究終了後、今後のLHC加速器の運転スケジュールにより実験が行われていく事になると思うが、QGPを理解する上で、クォークジェットとグルオンジェットを識別できる本装置の役割は非常に重要であるので、研究期間は終了しているが、今後の成果を期待する。
B	